

## 2026年度フィールドスタディ報告(ホームページ掲載)

|      |                                     |     |          |
|------|-------------------------------------|-----|----------|
| 科目名  | フィールドスタディ A                         | 教員名 | カン・ビクトリヤ |
| 実習先  | 岡山県倉敷市                              |     |          |
| 実習期間 | 2026 年 7 月 3 日 (金) ~5 日 (日)         |     |          |
| テーマ  | 起業家活動による地域経済・社会へのインパクト：岡山県倉敷市を事例として |     |          |

### 目的(実習のねらい)：

- ・ 起業家活動と地域発展の関係を学べる岡山県倉敷市を事例として、起業家と地域社会の関係を現地調査から考え、起業家活動による地域経済・社会へのインパクトを考察する。
- ・ 能動的学習とアクティブラーニングを主として、学生主体の調査プロジェクトを遂行する。
- ・ 地域の歴史・文化を体験的に理解し、地場産業・地域企業の現場を視察する。

### 実習報告：

一連のプロセスを楽しく体験してみた：

- ・ **事前学習**：三つの班に分かれ、岡山県倉敷市を題材に下調べし、興味のある分野・業界を選定。グループでテーマ（リサーチ・クエスチョン）を設定し、文献調査と二次データ・資料収集を行った。あわせて、現地調査の聞き取り調査先を特定してアポ取りをし、質問票を作成した。
- ・ **現地実習（現地調査）**：倉敷市で街歩き調査と聞き取り調査を行い、施設・現場を観察し、地域の歴史や文化を体験した。
- ・ **事後学習（成果報告）**：フィールドワークの知見を整理し、研究成果をプレゼンした。具体的には以下の通り。

**教室内学習としては**、岡山県出身の実業家 3 名（岡崎嘉平太氏・大原孫三郎氏・石川康晴氏）の事績と、彼らが地元の経済社会に与えた影響について調べた。岡崎氏は全日空の前身となる会社の設立に携わり、後に同社社長として航空事業の発展に尽くしたこと、大原氏は父から継いだ倉敷紡績を率い、電力・金融・新聞へ事業を広げ、教育・福祉の支援や大原美術館の設立で文化振興を担ったこと、石川氏はアパレル企業の創業で雇用を創出し、文化振興財団を通じて芸術・教育活動を支えたことについて理解できた。岡山の発展は企業活動にとどまらず、教育・文化・福祉に及ぶ実業家たちの努力に支えられているという結論に至った。

次に、三つの班に分かれ、下記の通り、それぞれの現地調査プロジェクトを実施した。

**離島班：**倉敷市周辺の離島と本土の関係を、聞き取り・現地観察・行政照会の三本立てで調べた。7月3日 15:30～16:00、下津井漁業協同組合事務所（岡山県倉敷市下津井）で代表理事組合長・三宅章氏と山本航氏に伺い、翌4日は瀬戸大橋記念館（香川県坂出市番の州緑町・番の州公園内）で展示パネルから架橋の経緯に関する資料を集めた。六口島は定期船がなくチャーター船が要ると判明して上陸を断念し、対岸の下津井で島民本人に会う形に切り替えた。

**デニム班：**児島デニムの競争力とブランド価値の源泉を探るため、事前に天然藍染と合成インディゴ染を比較し、原材料と手仕事へのこだわりが価値を生むと仮説を立てて臨んだ。7月3日、ビッグジョン（倉敷市児島田の口4-11-31）で広報・品質管理部の松田広樹氏に聞き取り、グラフゼロ（株式会社 Channel／児島元浜町112-2）併設のファクトリーショップでガラス越しに製造工程を見学した。2日目は企業訪問が中止となり、陶芸体験と紡績工場見学に切り替えた。

**特産品班：**「倉敷地区はどのように後継者問題に向き合っているのか」を問いに、7月4日の一日で業種の異なる家族経営3店舗を連続訪問した。午前11時から明治2年創業で倉敷最古の陶器店・酒津焼窯元の6代目岡本研作氏、午後14時半に雑貨店「くらや」の奥田裕子氏、午後16時半に1948年創業の恒枝茶舗3代目・恒枝信三氏に聞き取り。継承済み・継承予定・後継者未定という三つの段階を並べて比較できたのが収穫だった。

## 成果：【勉強になったこと】

**離島班：**①生の声による仮説の修正（聞き取りの重要性）：「橋の建設＝漁業被害」という当初の想定に反し、現地での聞き取り（三宅氏）から「移住者や旅行者の増加など肯定的影響が大きい」という実態が判明し、事前仮説が覆された。②「当事者」への聞き取りと資料の補完：現地へ渡航できない場合でも「最も近い当事者」に会うことで調査は補える。文献資料にはない島民の生の声（島民7人の1人である山本氏）を得ることで、生活のリアルな描写（買い出しも緊急搬送も自船、水は井戸水とため池などという話は資料に出てこない）が可能になった。③インフラの本質と格差のメカニズム。安全への要請：100年以上前からあった架橋構想は単なる利便性ではなく、紫雲丸事故（168名死亡）などの安全対策という切実な背景から具体化した。六口島に橋が架からなかったのも、1966年の児島・坂出ルート選定の裏返しである。社会負担 vs 個人負担：橋の有無は「便利さ」の違いではなく、生活基盤（交通・水道など）を「社会が支えるか／個人が背負うか」という構造的格差（公共インフラの内外）に起因する。④島と本土の相互依存関係：架橋は生活様式や観光業など双方に変化をもたらす。櫃石島・岩黒島・与島では車が入りパーキングエリアや観光業が生まれ、坂出にも新しい街ができた。島は通院や買い物本土に依存し、本土は島の漁業（タコ漁など）や観光資源に支えられているという「相互依存」の構造が見えた。

**デニム班：**①競合に対する正しい評価と差別化戦略：量産型競合（ユニクロ等）の品質や縫製技術の高さを客観的に認め、過小評価しない。規模の経済で勝負できないからこそ、児島は「職人の手仕事」と「ブランドストーリー」で差別化を図っている。②地域産業の構造と企業ごとの多様な戦略：児島デニムは「地域一体型の工程別分業体制」で支えられた産業である。一方で、自社一貫製造を行う「グラフゼロ」や、自社工場を持たず価格調整を行う「ビッグジョン」のように、同じ産地内でも企業によって戦略は正反対である。③「手の届く価格」を意識した適正価格の哲学：高付加価値ブランドであっても無闇な高価格化はせず、粗利を確保しながら「一般家庭が少し努力すれば買える価格

帯」を設定するという確固たる販売哲学が存在する。④産地の課題（人と素材）とサステナビリティの価値。現場の課題：職人や希少な織機の技術者の高齢化、海外情勢による原材料不足と高騰という二重の課題に直面している。資産としての環境配慮：裁断くずを再糸化する「反毛技術」や化学製品ゼロの取り組みにより、環境配慮を単なるコストではなく「高品質かつサステナブル」という新たな差別化ストーリー（資産）へ転換している。

**特産品班：**①当事者の温度感（意識）：外からの想像とは異なり、後継者不足への不安は抱えつつも「代々受け継いできたものだから」と強い覚悟と使命感を持って受け止めており、必要以上に悩まされてはいないという現場の生の意識が伺えた。②継承・参入を阻む構造的課題。修業期間と収入：技術習得に長期間を要することや、将来的な収入の見通しが立ちにくいことが参入の壁となっている。制度の限界：補助金は展示会や美観地区の外観維持（景観保護）には出ても、各店舗の個別の経営支援には届いていない実状がある。③継承の原動力（動機）：家業を継ぐ動機は「経済合理性」ではなく、親の願いに応えたい、店の良さを残したいという「人間関係や感情」に深く起因している。④「集客」と「後継者確保」の乖離：陶芸体験などで若者の集客を増やせても、それが直接「後継者の確保」につながるわけではなく、集客と継承は別問題として捉える必要がある。⑤店舗の継承と「街・需要の変化」の連動：一店の存続は、周辺店舗の変化（スーパーや大型施設の参入、商店街の居酒屋化など）や市場需要に左右される。世界的な茶ブームで外国人客は増える一方、抹茶に加工が偏り煎茶が追いつかず、安価な外国産茶葉の流通も見込まれる。日本の魅力を世界に発信していくなかで、日本の老舗や伝統を「守る」だけでは限界があり、SNS 発信や新規参入の受入、外国人客に「新しいもの」として届ける発想といった新しいアプローチが不可欠である。

## その他：

全員行動：7月3日午後は瀬戸内海国立公園を見学し、7月5日午前には国指定重要文化財の語らい座大原本邸と井上家住宅を訪問した。語らい座大原本邸では座禅を体験し、井上家住宅では16代当主の井上典彦氏に詳しい説明を頂いた。その他、倉敷美観地区の主要施設（倉敷アイビースクエア、倉紡記念館、大原美術館ほか）も散策・見学した。

## 学生の向上度：

本実習を通じて、学生が次の社会人基礎力を身につけた。

- ・自分の頭で考えて問題提起やリサーチ・クエスチョンを特定する力（問題発見能力）を鍛えた。
- ・情報収集力（一次・二次データ、事前学習・現地調査）と情報分析力（事後学習）を身につけた。
- ・聞き取り調査のアポ取り（電話やメールのビジネスマナー）、現地調査のスケジュール作成、パワーポイントによるプレゼンテーションの作成を、全員がゼロから行えるようになった（計画力・実行力）。
- ・チームワークやディスカッション、質疑応答セッションを通じて、チームワーク力・コミュニケーション能力・論理的思考力・批判的思考力を鍛えた。

## 講座の難易度：

教員は、事前学習・現地調査・事後学習といった各段階の到達目標を学生に説明するにとどめ、問題提起をはじめ、全ての意思決定やアポ取りなどを学生が主体で行った。

離島班（3名）



RQ:『倉敷市周辺の離島は、船や瀬戸大橋などの交通インフラを通じて、本土や他地域とどのような関係を形成し、そこにどのような格差や相互依存が生まれているのか』



場所：岡山県倉敷市下津井。位置づけ：船の島（六口島）に最も近い、本土側の漁業の当事者  
対応：三宅様、山本様 日時：7月3日



場所：香川県坂出市番の州緑町

日時：7月4日

調査方法：展示の見学・記録（展示パネルの内容を資料として収集）



## デニム班



児島ジーンズストリートにてデニムメーカーへの聞き取り調査



7月3日、ビッグジョン（倉敷市児島田の口 4-11-31）で広報・品質管理部の松田広樹氏に聞き取り



＜直営店と工場見学＞児島の本社敷地内にはファクトリーショップ（THE DENIM FACTORY&SHOP）を併設。グラフゼロ（株式会社 Channel／児島元浜町 112-2）併設のファクトリーショップでガラス越しに実際の製造工程を見学した。

## 特産物班



↑左から2番目が雑貨店「くらや」の店主の上津さん



明治2年創業で倉敷最古の陶器店・酒津焼窯元の6代目岡本研作氏に聞き取り調査



1948 年創業の恒枝茶舗 3 代目・恒枝信三氏に聞き取り

## 集団行動

### 瀬戸内海国立公園の見学



### 国指定重要文化財（大原家住宅）



国指定重要文化財（語らい座大原本邸）で座禅体験



国指定重要文化財（井上家住宅）



倉敷市内の見学



以上

カン・ビクトリヤ 専任准教授